

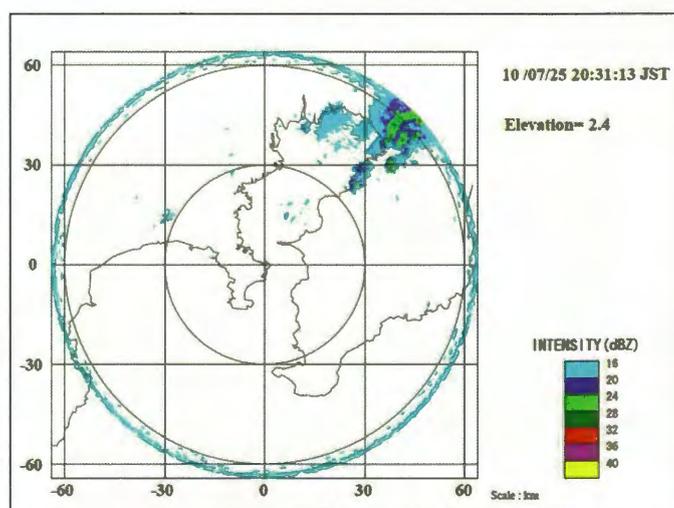
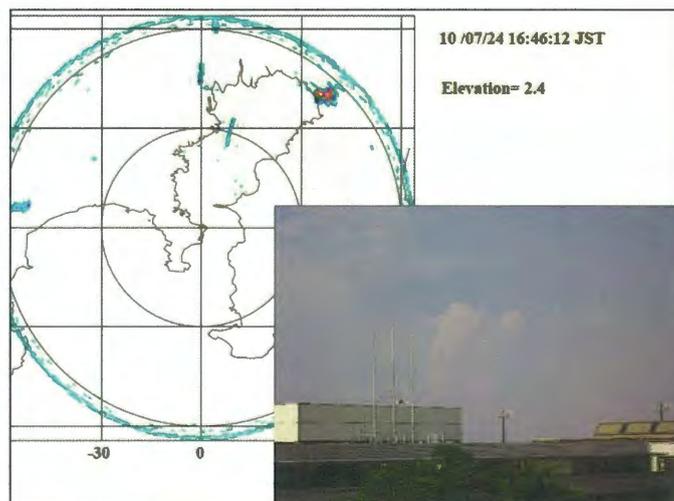
千葉大ミリ波雲レーダ FALCON-1 による 積乱雲の内部運動の観測

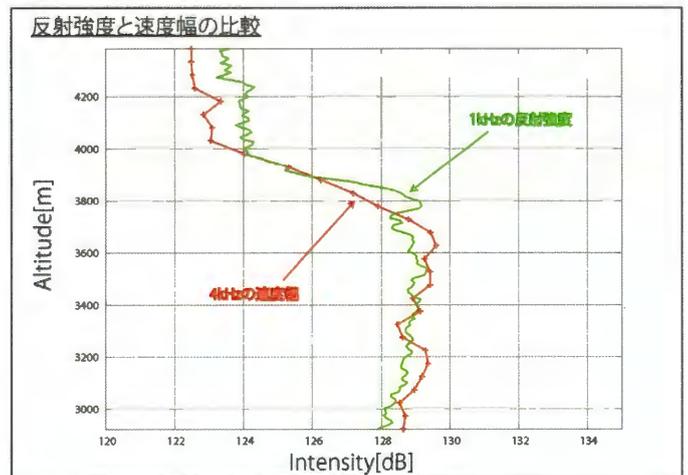
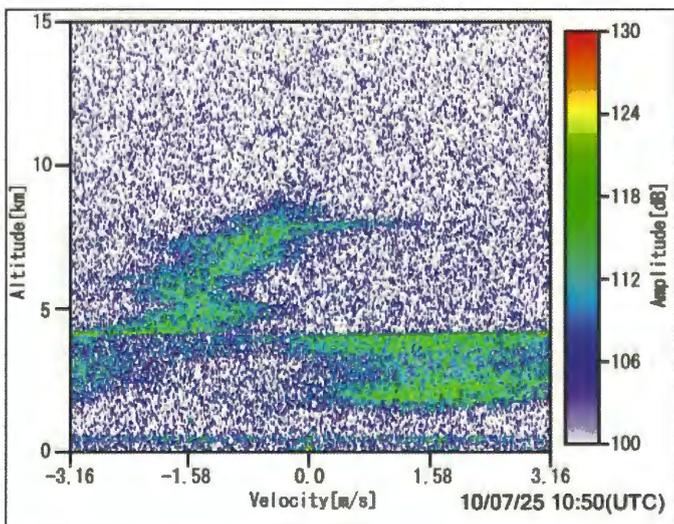
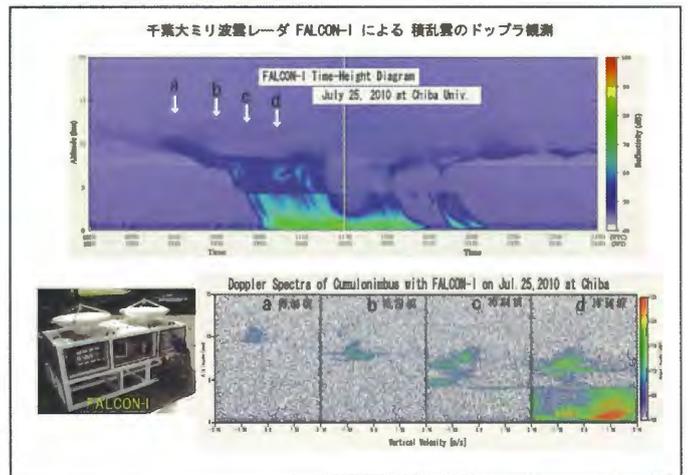
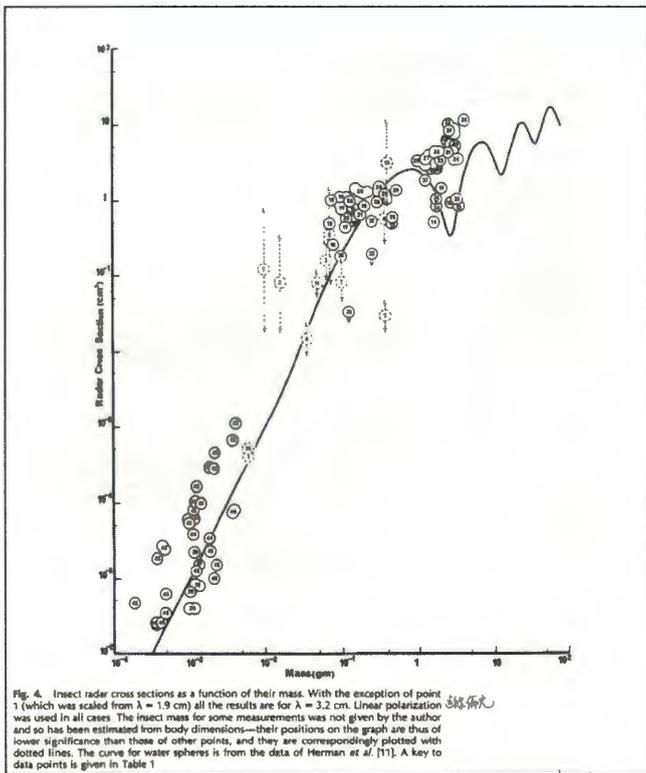
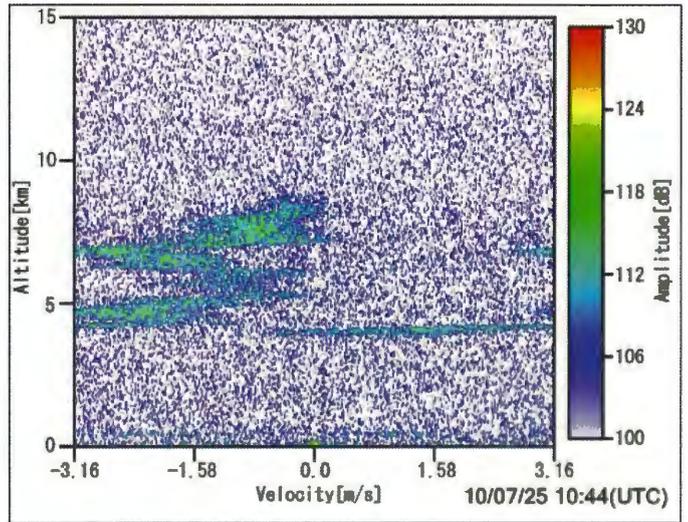
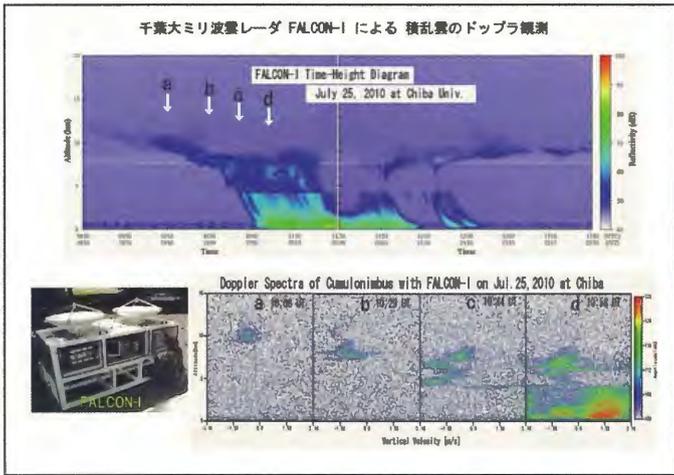
鷹野敏明(1)、小林文明(2)、高村民雄(3)

(1)千葉大学大学院工学研究科 (2)防衛大学校
(3)千葉大学環境リモートセンシング研究センター

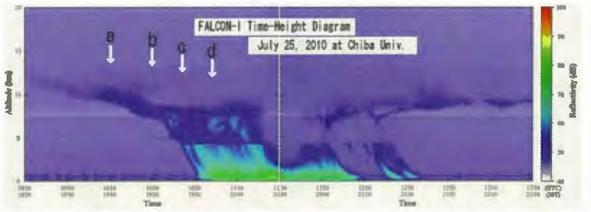
『ミリ波レーダと衛星および地上観測による雲物理量解析と
広域放射収支評価』(代表:鷹野、担当:高村)

高感度高分解能の 95 GHz レーダ FALCON-1 を用いて、2010年7
月に積乱雲の観測を行った。ドップラ計測により、積乱雲中に
100 m スケールの上昇・下降流が存在することがわかった。また
、雲底の融解層で、1 mm 程度の雨粒子が 200 m 程度の層で生成
し、終端速度まで加速されて降っている様子が捉えられた。





千葉大ミリ波雲レーダ FALCON-I による 積乱雲のドップラ観測



Doppler Spectra of Cumulonimbus with FALCON-I on Jul. 25, 2010 at Chiba

